

令和6年度 天栄中学校区 拡大学校運営協議会

○日時 令和6年10月3日(木)15:00-17:00

○場所 栄小学校体育館

○参加者 天栄中学校区 学校運営協議会委員

1 開会のあいさつ(委員長より)

- ・5校が集まる機会はなかなかないですが、顔を合わせて知り合いになり有意義な時間にしたいと思います。
- ・学校再編等の思いについても、グループの話しあい交流できればと思います。
- ・非認知能力について:学校支援ボランティアで読み聞かせをしています。

2 講演「非認知能力の育成について」

鈴鹿市教育委員会事務局 教育支援課 橋本 伸清講師

- ・非認知能力と認知能力の両輪で取り組んでいく。
- ・非認知能力:人間力、心の能力 (例)あたたかさ、かしこさ、たくましさ
- ・安心感、愛着形成:しっかりと受け止める、じっくり聴くと自己肯定感へとつながっていく。
- ・家庭教育、社会教育、学校教育:心を育てるのは幼少期から。
- ・学校ができること→「～したい」を大切にすること。
自己肯定感、主体性、自己選択
子どもの成長のペースに合わせた取組
- ・家庭ができること→心が安定する生活(愛着形成)
食事、睡眠、生活リズム、お手伝い、共有体験、
- ・地域ができること→愛着がもてる地域づくり、「ふるさとで暮らしたい」

3 天栄中学校区における学校再編の進捗状況について

鈴鹿市教育委員会事務局 教育政策課 小川 裕 様

- ・令和6年4月学校再編準備委員会(5つの専門部)を立ち上げ、そこで議論しながら進めている。最終的な方向性は、市庁部局等で決めていく。
- ・10月初旬から一ヶ月間、校名を公簿で決める。
- ・3つの小学校(合川小、天名小、郡山小)では交流の取組をしている。
- ・令和7年度から、令和14年度義務教育学校開設に向けての取組が始まる。

4 グループの話し合い及び全体交流 「学校運営協議会として」できることや、その課題等

【学校再編】

- ・令和8年度に再編する3つの学校以外に、義務教育学校についての説明はあったのでしょうか。
- ・小学校に通う子どものいない世帯には他人事のようなようである。
- ・学校再編について、もっと丁寧な説明、情報提供をいただきたいと思う。
- ・義務教育学校になったら、どこで授業を受けることになるのか。

- ・スクールバスではなく、C-バスを使えば、地域の人も中学生も、高校生も使えるのではないか。

【家庭・地域との連携】

- ・学校の評価を求められる時に、地域に対して、学校のことについて、どの点がねらいか、主にしているのかを示してもらえるとありがたい。
- ・地域や家庭がどのように動くのか、発信してもらえると嬉しい。

【非認知能力】

- ・孫と話をしていると、非認知能力を自然に高められると教えてもらいて、良かった。
- ・年代年代で、保護者も子どもも変わってきている。非認知能力をどう捉えて、関わるのか難しい。直接関わって育つものなのか、放っておいて育つものではないということか。

【地域】

- ・子ども食堂では地域のつながりを感じることができた。高齢化したら、誰がするのかが、今後の課題である。
- ・学校・子どもたちを、どのように育てていったらよいのかを模索している。
- ・学校、地域、保護者が三身一体で何をしていけばよいのかを考えている。
- ・地域に愛着を持てるような取組として、夏祭り、もちつき等を実施している。
- ・ボランティアの人でも子どもとの関わりは大切である。
- ・見守りをしているが、スクールバスで行くようになったら、関わりがどんな形になるのかが、不安である。
- ・地域で、地震体験など、消防団に子どもたちの保護者が多いので、連携できたら良いと思っている。
- ・再編により、ボランティアが参加しづらくなり、ボランティア不足になるかもしれない。
- ・子どもから大人まで楽しめる行事を考えていきたい。
- ・自治体で、子ども主体の取組を模索している。
- ・あいさつ運動、学校支援などのボランティアをしている。